

## 木質ペレットの可能性

株式会社グッドバンカー  
リサーチチーム

再生可能エネルギーであるバイオマス発電に利用するため、欧州が燃料となる木質ペレットを大量に輸入し始めました。欧州マーケットのシェア 60%を握る、最大の供給国はアメリカです。アメリカのペレット産業は大きく変貌を遂げ、輸出能力を 2008 年の 10 万トン以下から 2014 年の 400 万トンにまで急成長させました。特に、いまや世界最大の木質ペレット需要国であるイギリスへの輸出量は、2009 年の 164 トンから 2014 年（1-9 月）約 212 万トンへと増加しました。これまでアメリカペレット産業の 80%が国内での需要でしたが、現在では輸出産業になりました。欧州ペレット協議会（European Pellet Council）によると、2010 年には全世界で 1,200 万トン超の木質ペレットの生産があり、2020 年までに 1 億トンまで成長するとしています。

国土の 7 割を森林が占める日本においても、木質ペレットの生産量は年々増加しており、2008 年には 3.6 万トンだった国内生産量は、2011 年に約 7.8 万トンに伸びました。しかし、2012 年の輸入量が 7.2 万トンであり、その多くは大手電力会社に供給されて石炭との混焼に使用されています。日本では 1 工場当たりの生産規模は、年間 100~1,000 トン程度が中心ですが、欧州諸国は年間 4 万トンクラスが「標準工場」であり、これに比べると非常に小規模となっています。価格競争力を高めるために、木質ペレット生産工場の規模拡大を進める必要がありますが、資源が広い地域に分散する日本ではなかなか進まず、輸出産業への道程は険しいものがあります。

一方、日本の森林、特に人工林は、現在利用可能な資源が充実しており、間伐等を適時適切に進めていく必要があります。森林による二酸化炭素の吸収作用の強化のためにも、政府は、平成 32 年度までの 8 年間において、年平均 52 万 ha の間伐を実施することを目標としています。全国的に間伐が進めば、木質ペレット生産工場の大規模化を促し、将来的には輸出産業に育つかも知れません。まだまだ可能性の段階ですが、未来の輸出産業のドライバーとなりうる企業を今から探すのも、SRI の視点のひとつです。

US Department of Agriculture GAIN report (16Jan2015)

平成 24 年度 森林・林業白書、平成 25 年度 森林・林業白書